

令和8年度 文京区立林町小学校 授業改善推進プラン

図工

学年	指導上の課題の分析	授業改善の具体的方策	評価（成果と課題）
3年	○造形活動への意欲が高く、材料や用具に積極的に関わる一方、発想を形にする過程で見通しをもつことや、工夫することが難しい児童も見られる。 ○木材や釘、版画材料など扱う材料や用具が広がる時期であるため、安全な扱い方を身に付け、手順を確かめながら活動する態度を育てる必要がある。	○材料や用具を実際に試す時間では、「やってみる→気付く→さらに工夫する」という活動を大切にする。児童の発見や工夫を取り上げて共有し、安心して試行錯誤できる環境をつくる。 ○導入時に作品例や実物、動画等を活用し、活動の流れや用具の扱い方を視覚的に分かりやすく示す。また、説明を短く区切り、実演と活動を組み合わせることで、児童に見通しをもたせる。	
4年	○材料や技法への興味が高まり、自分なりのイメージをもって表そうとする一方、思い描いた完成形にこだわり、偶然生まれた形や色、制作途中の変化を積極的に活かすことが難しい児童も見られる。 ○友達の表現に関心をもち始める時期であるが、さらに自分と異なる表し方のよさに気付いたり、発想を広げたりする経験をさらに充実させる必要がある。	○材料や技法を自由に試す時間を取り入れ、偶然生まれた形や色からイメージを広げられるようにする。「何に見える？」「ここからどうしたい？」などの問いかけを通して、試行錯誤を肯定的に捉えられるよう支援する。 ○制作途中にも作品を見合ったり、友達の工夫を紹介したりする時間を設け、多様な表現のよさに気付かせる。また、発想を広げたり深めたりできるようにする友達との交流の機会を設ける。	
5年	○自分なりの表現のこだわりが生まれる一方、友達と比較し自分のアイデアや表現活動に自信をもてない児童も見られる。 ○表したいことに合わせて材料や方法を選び、自ら考え、試しながら表現を深めていく経験が必要である。	○多様な作品を鑑賞し、形や色、材料の使い方など様々な視点からよさを見付ける活動を通して、表現の多様性を実感できるようにする。 ○材料・用具・技法に選択肢をもたせ、表したいことに合わせて方法を選択できる題材設定を工夫する。	

6 年	○表現力や技能が向上する一方で、失敗を避けたり、見慣れた表現や既存のイメージに頼ったりする児童も見られる。 ○表現したことの意図を言葉にしたり、制作過程を振り返ることで次の活動につなげたりする活動には個人差がある。	○試す活動の充実を図り、児童の試行錯誤を価値づける。また、作品を見直したり、友達と表現の意図や工夫を交流したりすることで、自分らしい表現を追究できるようにする。 ○制作過程の写真や ICT 等を活用し、考え表現の変化を振り返る機会を設ける。完成だけでなく、工夫した過程にも目を向け、自分の学びを実感できるようにする。	
--------	---	--	--